



Newsletter

No. 11 September 2013

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点

11 de Septiembre (9月11日)

9月11日といえば2001年、世界を震撼させた米国におけるテロルが思い出されますが、チリでは別の記念日として国民の心に刻まれています。1970年、チリ大統領選挙により、サルバドル・アジェンデ氏を首班とする社会主義政権が誕生しました。民主的選挙により社会主義政権が成立したのは世界で初めてのことでした。アジェンデ政権は国有化政策等の大胆な改革を断行しましたが経済は安定せず、また東西冷戦を背景に社会主義政権を敵視する米国の工作により社会的混乱が引き起こされました。1973年9月11日、米国CIAの支援を受けたピノチェト将軍らの軍事評議会がクーデターを起こし大統領府であるモネダ宮殿を攻撃、降伏を拒否したアジェンデ大統領は自害しました。チリはその後16年にわたり軍政下におかれ、弾圧や虐殺が繰り返される時代を送ることになります。

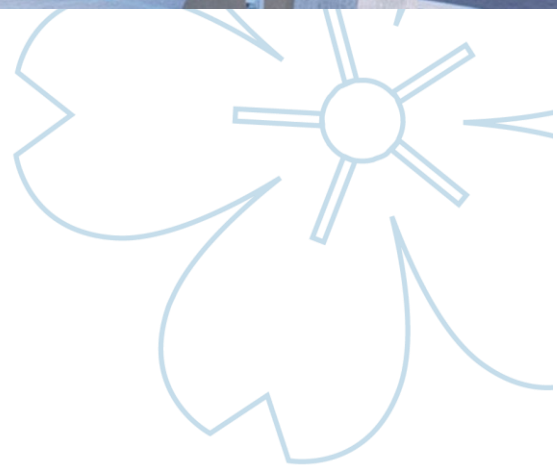
自国民による民主的な政権選択は、たとえそれがポピュリズムであれオクログラシーであれ尊重されるべきですが同時にその結果は選択した国民自身の責任に帰するでしょう。結果を見届けることなく他国の介入により厳しい社会的状況におかれてしまったチリの歴史は、残念ながら昨今の世界情勢の中でも繰り返されているように思われます。

ニュースレター第11号では、8月に行われたTMDUチリ・エクアドル派遣団の活動を中心に、LACRCの活動をお届けいたします。

河内 洋 LACRC 人体病理学分野



アジェンデ元大統領(左)とピノチェト元将軍(右) (Wikipediaより)



LACRC TMDU IN CHILE
Latin American Collaborative Research Center
Santiago de Chile



Contents

- ご挨拶 1
- PRENECの進捗状況 2
- TMDU派遣団の活動報告 3

PRENECの進捗状況

LACRCのメインミッションであるPRENECの最新情報をご報告いたします。チリの各地に広がりつつあるPRENECの一環として、本年8月12日にサンティアゴ・国立サン・ボルハ病院で内視鏡検査がスタートしました。サン・ボルハ病院では、LACRCの岡田助教がPRENECの大腸内視鏡検査に携っており、実際の内視鏡検査の担当や、現地医師への指導を行っています。

第2回チリPRENEC講習会を開催

PRENECプロジェクトのリーダーであるCLC大腸肛門科ロペス医師の主催により、第2回チリPRENEC講習会が本年8月16日にCLCにて開催されました。LACRCからは河内講師、岡田助教が講師として参加しました。

本講習会にはチリ国内(第2州のアントファガスタ、第4州のコキンボ、第5州のバルパライソ、第10州のオソルノ、第12州のプンタ・アレナス、第8州(首都州)サンティアゴ)より計55名の消化器科・大腸肛門科・病理の医師や看護師等が参加し、現在プンタ・アレナス及びバルパライソにて実施中であるプロジェクトの経過報告や問題点に関する意見交換、新規参加に必要な設備や運営方法、標準プロトコルの説明、質疑応答等が行われました。

本講習会によりPRENECの新規参加が促進され、チリ国内におけるネットワークがさらに広がることが期待されます。

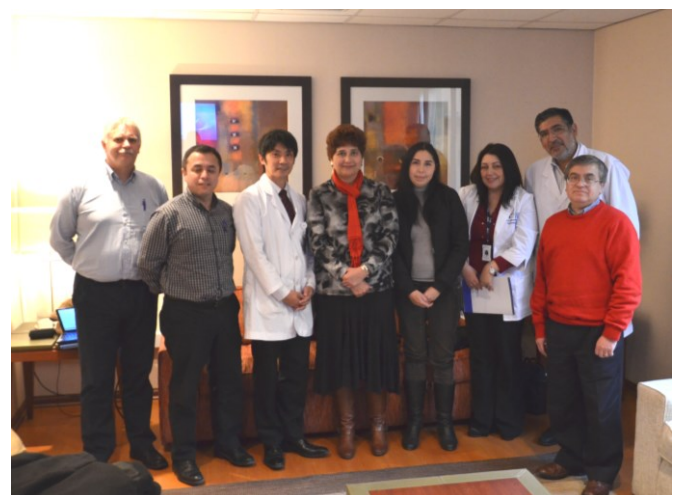
LACRCは今後もチリ国内におけるPRENECの進展に協力して参ります。



講習会参加者とCLC・TMDUスタッフとの記念撮影



岡田助教によるプレゼンテーションの様子



PRENEC講習会に参加する病理医たち

TMDU派遣団の活動報告

本学の大山喬史学長、杉原健一教授(腫瘍外科学分野)、河野辰幸教授(食道・一般外科学分野)、江石義信教授(人体病理学分野)、大久保憲一教授(呼吸器外科学分野)、吉田丘特任教授(国際交流センター)、近藤弘総務部長、下田弘二企画・経営掛長からなる派遣団が、8月17日から29日まで、チリのサンティアゴ、オソルノ、バルパライソ及びエクアドルのキトを訪問しました。

今回の訪問では、現在進行中のチリ・エクアドルにおける早期大腸癌診断・治療に関する活動のほか、チリ大学と共同で設置するジョイントディグリープログラム構想や、チリ・オーストラル大学との協定、またエクアドル中央大学との協定のための意見交換など、学術的な面でも多くの成果が得られました。

また、今回はCLCの呼吸器外科医であるクラベロ医師の要請で呼吸器外科の大久保憲一教授が参加し、CLCやチリ大学医学部附属病院を訪問し、チリで急増中の肺癌診療に対する現状視察や日本の肺癌治療に関する講演を行いました。

国際シンポジウムENDOSURへの参加

SANTIAGO - CHILE | 19 AL 21 DE AGOSTO 2013 | MARRIOTT HOTEL



Dirigido a: Gastroenterólogos, Cirujanos, Coloproctólogos, Oncólogos, Internistas, Medicina familiar, Patólogos

Enfermedades del aparato digestivo alto

Enfermedades coloproctológicas

Cirugía bariátrica y metabólica

本学がチリ側と共同で毎年実施してきた消化管疾患に関する国際シンポジウム「ENDOSUR」が本年も8月19日から21日までの3日間にわたって開催されました。今回は日本を始め、米国や欧州から21名の医師が演者として招かれ、消化管疾患に関する講演や最新の研究発表を行いました。本学では派遣団から杉原教授、河野教授、江石教授の3名及び、LACRCの河内講師、岡田助教の2名が演者として参加しました。また日本からは国立がん研究センターより斎藤豊医師、小田一郎医師も招かれ、最先端の内視鏡診断、治療技術を披露しました。同時に開催されたワークショップではチリにおけるPRENECの取り組みを紹介するとともに、国内外にPRENECへの参加を呼びかけました。



河野教授による講演の様子



シンポジウム会場にて

TMDU派遣団によるオソルノ市訪問

2013年8月21日から22日にかけてPRENECへの参加を表明しているオソルノ市を訪問しました。

オソルノ市はサンティアゴから800km南に下ったチリ中南部第10州に位置する人口約16万人の都市で、チリ富士と呼ばれるオソルノ火山や牛肉の産地として知られています。今回はこの地域の中核病院の一つで拠点病院となる予定のサン・ホセ・デ・オソルノ病院を訪問し、PRENEC実施予定の施設、設備を視察しました。また同病院は、第10州バルディビアに拠点を置くアウストラル大学医学部の附属病院としても機能しており、オソルノ市内にも同大学のキャンパスが置かれています。今回は、アウストラル大学オソルノキャンパスへも訪問し、今後の学術的提携の可能性等についての協議が行われました。



美しいオソルノ火山(<http://soloenchile.tumblr.com>)



地元メディアの取材を受ける大山学長ら



内視鏡センター改装式典にて



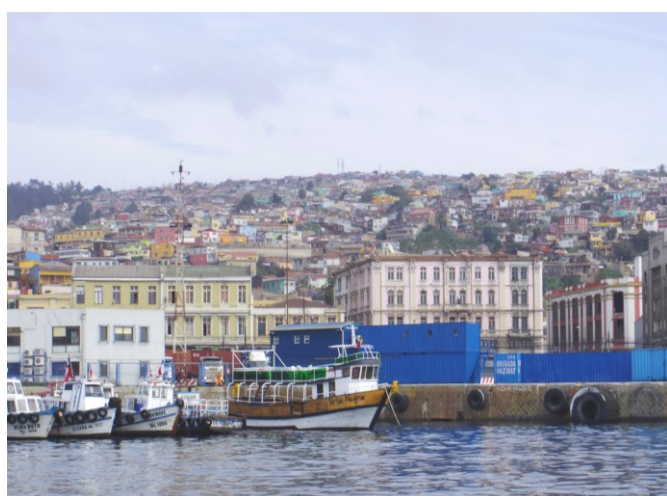
アウストラル大学・グロブ医師と

バルパライソでの拠点となる新内視鏡センター開所式

チリ第5州の都市バルパライソはPRENEC参加都市の一つですが、これまで基幹病院のエドアルド・ペレイラ病院の内視鏡センターは大幅な改装を行っていたため、内視鏡検査は対象者を移送しCLCで施行されていました。

改装終了と新内視鏡センターの始動に伴い、8月23日にセンター開所式が執り行われ、本学訪問団とLACRCスタッフが出席致しました。これまでもバルパライソのPRENECにはLACRCスタッフが積極的に参加しており、引き続き協力を続けていくことを表明致しました。

今後は、更なる検査数の増加とプロジェクトの効率化が期待されます。



歴史ある港町バルパライソ



エドアルド・ペレイラ病院にて



内視鏡センター開所式典における大山学長のスピーチの様子



新しい内視鏡室にて関係者と

チリ保健省・JICAチリ支所訪問

チリ保健省を訪問し、マニャリッチ保健大臣と会談しました。マニャリッチ氏は、2009年に本学が保健省・CLCと三者協定を結んだ当時、CLCの院長職にあり、以後保健大臣に就任したのちも、本学のチリにおける活動を強く支援してきました。今回の訪問では、大山庄長から本学の活動報告等を行いました。マニャリッチ氏は、今までの本学の活動に対する感謝と、今後の継続した支援を表明されました。また、JICAチリ支所を訪問し、チリにおける活動報告及び、今後の展望を話し合いました。



マニャリッチ保健大臣と大山庄長



JICAチリ支所訪問の様子

チリ大学とのジョイントディグリーコース開設に関する協議

本学では、チリにおける大腸癌スクリーニング分野に対する協力・支援の実績を基にした人材育成の一環として、チリ大学医学部及びCLCと共同で運営する大学院ジョイント・ディグリー・コースの設立を検討しています。

今回のチリ訪問では、チリ大学医学部及びCLCに対し、本構想の説明及び提案を行いました。本コースの開設については、チリ大学及びCLC側からも理解が得られ、実現に向けた基本的な合意を取り付けるとともに、本学及びチリ大学の各メンバーから構成される準備委員会を設置して検討を行うこととなりました。

CLCは、私立病院でありながらもチリ大学のクリニカルキャンパスとしての機能も担っており、基礎研究にも力を入れています。CLCのグレベCEOやテヒアス院長から、今後本コースがスタートするまでに、大学院生やLACRC教員が研究活動を行うための十分なスペースや設備を整備していく意向も示されました。計画の進展を期待をもって見守りたいと思います。



チリ大学医学部にて

第2回キト国際消化器癌シンポジウムへの参加

8月26日に、エクアドルの首都キトで行われた国際消化器癌シンポジウムに本学派遣団及びLACRCスタッフが講師として参加しました。このシンポジウムはエクアドル保健省・エクアドル病理学会の共催及び本学の後援によるもので、昨年に続き2回目の開催となりました。

派遣団からは杉原教授、大久保教授、江石教授の3名が、またLACRCスタッフからは河内講師、岡田助教、小林助教の3名が、消化器癌の予防・診断・治療に関する最新の知見を日本及び本学独自の観点から発表し、参加者から大きな注目を集めました。質疑応答のみならず講演の合間、終了後も活発な議論が交わされ、日本とエクアドルの医療関係者の学術的親交を深めることとなりました。

シンポジウムには、在エクアドル日本国大使館から小瀬大使もご臨席され、本学のエクアドルにおける活動についてご理解とご声援を賜りました。



開会式における大山庄長のスピーチ



杉原教授による講演の様子



大久保教授による講演の様子



討論にてチリにおけるプロジェクトの結果を説明する河内講師

大使公邸晩餐会・保健省・スアレス病院訪問

8月26日夕刻、在エクアドル日本国大使公邸での訪問団歓迎晩餐会にご招待頂きました。晩餐会前にモンタルボ医師らとともに小瀧大使と会談を行い、大山庄長からチリにおける活動状況及びエクアドルにおける大腸癌スクリーニング普及の取り組みを説明しました。大使からは、TMDUの活動を今後もご支援頂ける旨の回答を頂戴しました。

8月27日、エクアドル保健省をモンタルボ医師とともに訪問し、エマヌエーレ国際協力課長と面会しました。同国における大腸癌スクリーニングに対するTMDU及びLACRCの支援状況をご説明し、今後もエクアドル保健省とTMDUが協力し大腸癌スクリーニングを進めていく方針を確認することができました。

さらに、エクアドルの大腸癌スクリーニングの拠点病院であるパブロ・アルトゥロ・スアレス病院を訪問し、病理部、内視鏡室、臨床検査部門等を視察致しました。プロジェクト拡大に向けて、意見交換を行いました。



在エクアドル日本国大使公邸晩餐会にて小瀧大使(前列左から2番目)らと



エクアドル保健省・エマヌエーレ国際協力課長に記念品を贈呈



キトにおける大腸癌検診プログラム促進ポスター(右:モンタルボ医師)



プロジェクト拠点であるパブロ・アルトゥロ・スアレス病院訪問

エクアドル大統領との面会が実現

休日の8月25日には、パブロ・アルトゥロ・スアレス病院の医師達のご招待により、キトから車で約1時間30分の温泉施設パバジャクタを訪れました。温泉では、静養中のラファエロ・コレア エクアドル大統領と面会することができ、エクアドルにおける大腸癌スクリーニングの取り組み状況などを説明する機会を得ることができました。



談笑するコレア大統領と大山学長



コレア大統領と記念撮影



パバジャクタ温泉



パバジャクタ温泉近傍の山岳地帯。標高は4000m近い。

編集後記

9月と言えば、チリ全国においても独立記念日の祝賀行事が行われ、皆大型連休を満喫します。しかし、休暇は永遠には続かないもので、最終的に怠惰な自己に打ち勝って、仕事に戻らなければいけません。来月には本学の学生がチリに到着する予定なので、LACRC一同、大変楽しみにしております。今後もニュースレターに関して、皆様からご意見・ご要望等がございましたら、お気軽にLACRCオフィスまでご連絡くださいませ。(ウレホラ・ハイメ)

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点
Latin American Collaborative Research Center
Newsletter No. 11, September 2013

[発行日] 2013年9月30日
[制作] Latin American Collaborative Research Center
Tokyo Medical & Dental University
Clínica Las Condes
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile
Tel: (56-2) 2610 3780 Fax: (56-2) 610 8610
Email: jurrejola@clc.cl